

令和4年度 学校評価における自己評価について

学校法人翔英学園 認定こども園みずほ幼稚園

1 教育理念

本園は教育基本法、学校教育法に基づき、幼児の望ましい経験を通して心身の発達を図り、豊かな人間形成の基礎を築くことを目的とする。

2 本園の教育目標

明るく、元気で心身共にたくましい、人間性豊かな子どもを育てる。

3 めざす子ども像

1. 明るく伸び伸びと行動し、心身共に健康でたくましい子
2. 園生活を楽しみ、身近な人に愛情や信頼感を持つ子
3. 身近な環境に親しみ、好奇心や探究心を持って関わり、よく考える子
4. 感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな心を持つ子

4 本園の特色

1. 自然の中へとび出す保育
2. 元気な体をつくる保育
3. 温かい手づくり保育
4. 友だちをいっぱいつくる保育

5 本年度の教育重点目標

○身近な環境に親しみ、好奇心や探求心を持って関り、よく考える子

- ・身近な環境に関わろうとする。(0歳)
- ・身近な環境に親しみをもつ。(1歳)
- ・身近な自然に触れ、興味をもつ。(2歳)
- ・身近な自然に触れ、興味関心をもつ。(年少組)
- ・身近な環境に興味・関心を持ち、遊びに取り入れようとする。(年中組)
- ・身近な事象に興味・関心を持ち、知的好奇心を高めようとする。(年長組)

6 園が重点的に取り組む目標

- ・乳幼児の保育・教育の環境構成や教材の研究に積極的に取り組み、長時間保育の生活リズムや心身の状態に配慮をしていく。
- ・0・1歳児の少人数(高月齢・低月齢)での遊びや、環境設定を工夫する。
- ・保育の質の向上に向けた課題に組織的に取り組み、保育内容の改善や役割分担の見直し等を行い、それぞれの職務に応じた知識及び技能を身に付けていく。
- ・園内研修や会議について、取組み内容を明確にして、有効的な会議の進め方、実践と評価、課題について検討や解決に取り組む。
- ・コロナ禍で感染対策に努めながら保育・教育、行事の取り組みについて随時検討し、保護者へ子どもの育ちについて発信、共有できる機会を設ける。

7 評価項目の達成及び取組み状況

教育・保育内容の充実	評価	取組
園の教育理念・教育目標・方針に沿って教育課程が編成され、それを基に年間指導計画を作成し、月週案を随時評価し見直している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の振り返りを行い、月案を見直して子どもの姿に沿った保育・教育を行った。0, 1歳は、毎月個別に目標を立案し、きめ細やかな保育を行った。
認定こども園教育・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態を踏まえ、発達に即した内容の保育を実践し、行事の取り組みも改善している。年度替りには担任の引継ぎ会を行い、発達の連続性を大切にしている。
職員間の共通理解のもと教育・保育にふさわしい生活環境の工夫・見直しを行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、子どもの体調変化に気を配った。職員間の細やかな連携を大切にし、感染防止策についての環境の見直しや工夫を行った。
季節ごとに植栽を行い、園内の自然環境の充実を高め、保育の中にも活かし豊かな体験活動を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに季節の野菜や花を計画的に栽培して成長を楽しみに育てることができた。収穫した野菜は家に持ち帰り食育につなげたり、制作活動に発展したりした。
日常の保育や行事において、学年・縦割りグループ等を編成して、異年齢の園児同士が関わる活動を工夫している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、縦割りグループ活動は出来なかったが、自由遊びには園庭で異年齢でかかわる姿があった。保育者の援助でさらに関係が深められるようにしていく。
特別支援教育において、特別支援専門機関や家庭との連携を図り、個別の支援計画・指導計画を作成し適切な支援を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関や家庭と連携を取り、個々の姿を共有し支援を行った。保護者からの発達相談を受け、専門機関につなぎ、家庭・園・専門機関と共に子どもの育ちを支えている。
地域で支える幼児教育の推進		
散歩や園外保育を通し、地域の人や自然と触れ合う機会を設けている。また、地域の行事に積極的に参加し、交流や文化等に興味・関心を持たせている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の山に出かけて季節の自然物に触れたり、散歩に出かけて園周辺の自然や地域の人と触れ合ったりすることができた。年長児は行者山に登り、地域の歴史にも関心を持つ機会となった。 ・コロナ禍のため地域の行事参加は無かった。
子育て親育ち支援の充実		
保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者の意見や要望等も受けやすくしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへのアップを心がけ保護者に園の様子を見てもらう機会が増えた。 ・玄関には写真掲載の他、学年ごとのドキュメンテーションも加え、園の情報をより発信できた。 ・コロナ感染対策を講じた上で、参観日も学年ごとに実施できた。

連絡ノートを活用し、園や家庭での様子を伝合い、子どもの成長を共通理解している。	A	・子どもの小さなエピソードや成長について、連絡ノートや送迎時に伝え合い、保護者と成長や変化を共有することができた。
未就園児親子参加の体験教室「はらっぱくらぶ」を実施し、幼稚園の活動の疑似体験や、子育て講演会・相談を行い、子育て支援の取組を行っている。	A	・今年度は、講師の先生を招き、絵本やおもちゃについての話、又、はぐくむセンターと連携した取り組みについて話を聞いてもらう機会を設け、子育て支援へつなげていった。 ・コロナ禍により、今年度も人数制限はあったが、子育て支援の一助を果たせた。
預かり保育(早朝・延長保育)の運営体制を整え、カリキュラムを基に預かり保育の充実を図る。	B	・年齢に応じた教材を準備していたが、コロナ感染対策により教材に偏りがあった。 ・教材の活用の仕方やふさわしい過ごし方について今後も検討していきたい。
小学校教育との連携		
地域の小学校の先生や校長先生との連絡会を通し教育活動の進捗状況や子どもの姿について教職員が情報共有できる場を設け実践している。	B	・小学校から発表会見学の誘いを受け、年長児が見学に行き、よい刺激となっている。又、学校ごっこ（出前授業）は、より就学に期待が膨らむ取り組みとして続けていきたい。今後は授業見学など検討したい。 ・園長・校長会で情報を共有し、年長担任は交流を計画する際に、互いの様子を見たり話したりしているが、改めて情報共有の時間は取れなかった。
アプローチカリキュラムを基に、就学に向け幼小連携を意識しスムーズに移行できるようにしている。	B	・アプローチカリキュラムに即した内容の保育を実践し、なめらかな就学につながるようにしている。
幼稚園と小学校のお互いの行事を連絡し合い、交流の場が出来るようにする。	A	・スケジュールが合えば行事を見に行かせてもらい、就学前の子どもたちにたくさんの刺激を与えてもらっている。
保育者の資質向上		
教職員全員が園児の情報を共有し、共通理解を持ち適切に対応している。	A	・同学年の担任同士は情報共有がしっかり図れるが、全体での共有機会を得ることは難しい。今後は ICT を有効に活用していきたい。
園外研修に参加する機会を確保し、職員の資質向上に取り組む。研修会参加後に情報共有し、内容を共通理解していく。	A	・コロナ禍でウェブ研修となり参加しやすくなった。（研修回数が増えた。）研修後の有効な園内研修を実施していきたい。
安全管理		
危機管理マニュアルを基に防災計画を作成し適切に実施している。	A	・危機管理の研修にも参加して職員の意識を高めている。毎月訓練を実施して改善点を話し合い次の訓練に活かしている。安心安全な園生活に向けて今後も努めていきたい。

職員が定期的に園内外の遊具の点検をし、安全管理の徹底を心がける。職員が日頃から、安全教育に関心を持ち、安全対応能力の向上に繋がるようにする。	A	・定期的に遊具の点検を行っているが、使用していない遊具に関しては、使用時に点検を行う。常時、安全を意識して子どもの遊びを見守り、改善点を職員で共有していく。
--	---	--

8 総合的な自己評価(結果)

結 果	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が低い0, 1歳児は、保護者との連絡を密に、様子を伝え合うことができる。職員間も連携を図り保育を行うことができた。 ・職員がマスク着用のため、表情による感情メッセージの伝達の難しさを感じた。特に低年齢児の保育においては強く感じた。そのため、よりスキンシップを図り、寄り添い安心して過ごせるように努めた。 ・コロナ禍で制限のある生活であったが、保育や行事の取り組みについて、その都度検討し、感染状況によっては出来ることもあった。令和3年度よりは有効な行事の進め方や保育を実践することができた。散歩や園外保育にはできるだけ出かけ、見たり、聞いたり、触ったりなど、五感を使って様々な気付きがあり成長につなげることができた。 ・今年度は、感染対策としてクラス単位の活動であった。これまでと異なる生活スタイルの中で、子どもたちの遊びや関係がより深まるという良い面もあった。 ・毎日、保育の振り返りを記録に残し、子どもたちの遊びから育とうとしている姿を捉え、遊びが深まる援助や環境を設定し保育・教育を行っている。今後も振り返りの質を高めていきたい。

9 今後取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育の生活リズムや、園児の情緒の安定、保護者支援、子育て支援体制の充実を図っていく。 ・0, 1歳児の生活と遊びの環境を、さらに充実したものにしていく。 ・職員間の情報交換、園内研修の時間を工夫する。
--